

## 2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 10 日作成)

小委員会名	電磁環境小委員会		主 査 名：三枝健二 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (電磁環境運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：吉野涼二
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	(設置目的) 建物の電磁環境に関する各種計測法及び評価法の確立と標準化 (活動計画) 2009 年度：電磁環境計測方法の標準化，新しい計測方法（到来波によるシールド性能評価）の調査 2010 年度：電磁環境計測方法の標準化および学会基準化，新しい計測方法（到来波によるシールド性能評価）の適応性評価 2011 年度：電磁環境の評価方法に関する検討と指針の策定 2012 年度：電磁環境評価方法に関する検討（継続），電磁環境評価指針の策定，活動成果のまとめと新規活動分野の策定		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 主査：三枝健二（日本大学） 幹事：笠井泰彰（大林組） 委員：宇治川 智（鹿島建設），大貫勝壽（国土交通省），木村健一（K-Tech），黒沼 弘（協立電子工業），志田浩義（トーキンEMCエンジニアリング），鶴田壯広（竹中工務店），西村俊哉（日本板硝子環境アモニティ），橋本敏彦（アジレント・テクノロジー），平井淳一（鹿島建設），藤岡友美（大成建設），堀之内 淳（クマヒラ），吉野涼二（大成建設）		
設置 WG (WG 名：目的)			
2012 年度予算	5,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 建物の電磁環境に関する各種計測法の中で「建築物の現場における電磁シールド性能測定法」に焦点を当て基準化の推進を行った。基準化に当たり、測定法の見直しを行った結果、測定点の選定及び基準値の決定に関する問題点が抽出された。</p> <p>2. 到来波を用いた電磁シールド性能測定方法の基準化を目指して、共同測定を実施し、本測定法の適用限界及び測定精度向上に関する知見が得られた。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	
<p>運営委員会関連 刊行物・催し物</p>	<p>&lt;催し物&gt; 建築電磁環境に関する研究発表会 2013 参加者 35 名 (資料名) 同上</p>

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

## 2012 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

<p>総合評価 (4 段階評価)</p>	<p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 10px;">A</span>                          <span style="padding: 2px 10px;">B</span>                          <span style="padding: 2px 10px;">C</span>                          <span style="padding: 2px 10px;">D</span> </p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>本小委員会は、建物の電磁環境に関する各種計測法及び評価法の確立と標準化に関して主に 2 つの目標を掲げ、4 年間活動を行った。それぞれの成果を以下に記す。</p> <p>1. 「建築物の現場における電磁シールド性能測定法」の基準化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準化を目指した測定法の見直し。</li> <li>・測定点の選定及び基準値の決定に関する問題点の抽出。</li> </ul> <p>2. 到来波を用いた電磁シールド性能測定方法の基準化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連測定法の調査。</li> <li>・共同測定による本測定法の適用限界及び測定精度向上に関するデータの取得。</li> </ul>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。